

米国・国家宇宙会議(NSpC)の開催について

平成 29 年 10 月

文部科学省研究開発局

■国家宇宙会議(NSpC)の開催

平成 29 年 10 月 5 日(木)(現地時間)、ペンス副大統領を議長とする国家宇宙会議のキックオフ会合がワシントン DC、スミソニアン国立航空宇宙博物館別館(スティーブン・F・ウドヴァーヘイジー・センター)にて開催された。会議の様子は、ネット中継された。

■キックオフ会合の議題

“Leading the Next Frontier: An Event with the National Space Council”

「次のフロンティアを導く: 国家宇宙会議に係るイベント」

※ペンス副大統領のスピーチ要旨は次頁にて紹介。

■キックオフ会合の出席者

ペンス米副大統領、ティラソン米国務長官、チャオ米運輸長官、ロス米商務長官、デューク米国家安全保障長官代行、マルベニー米行政管理予算局長、マクマスター米国家安全保障問題担当大統領補佐官、コーツ米国家情報長官、ライトフット米航空宇宙局長官代行、シャナン国防副長官、クレイツィオス大統領副補佐官・次席技術顧問他

<参考>

国家宇宙会議(National Space Council: NSpC)…国家宇宙政策について大統領にアドバイスをすること、民生、商業、国家安全保障の各宇宙分野の政策調整を図ること等を目的として、1989年に設置された。クリントン政権以降では同会議は開催されず、事実上廃止同然になっていたところ、2017年6月にトランプ大統領がNSpCを復活させる大統領令に署名し、活動を再開することとなった。NSpCの議長は副大統領が務め、国務長官、国防長官、NASA長官をはじめとした各省庁のヘッドが構成員。

■ ペンス副大統領のスピーチ要旨

- (1) 国家宇宙会議の復活により、米国が再び宇宙分野でリーダーシップをとることを全世界に宣言する。
- (2) 米国のリーダーシップが欠けたことで、スプートニクのときのように米国は遅れをとった。スペースシャトルの運用終了後、国際宇宙ステーションへの宇宙飛行士の輸送のために、ロシアへの多額の支払いが発生している。前政権は他国との競争を避けて最高の宇宙技術を創造することをしなかったが、ロシアや中国は衛星攻撃技術(ASAT)の完備を目指している。
- (3) 今回の国家宇宙会議においては、米国の宇宙政策及び長期目標を見直し、安全保障から商業及び探査に至るあらゆる国家宇宙活動の調整を行う。これまで以上に、米国の繁栄、安全、アイデンティティは宇宙における米国のリーダーシップに係っている。
- (4) 米国企業は宇宙技術の最先端を走っている。政府と企業のパートナーシップをより強固とし、国益を引き出すことで、米国の宇宙におけるリーダーシップは保証されるであろう。
- (5) 地球低軌道(LEO)においては、米国が商業活動、有人活動を継続的に維持するための基盤を構築する。
- (6) 米国人宇宙飛行士を再び月に送り、足跡と国旗を残すだけでなく、火星以遠に米国人を送るための基盤を構築する。米国が有人宇宙探査に再び力を入れるにあたり、月は商業的、国際的なパートナーシップを強化する場となるだろう。
- (7) 国家宇宙会議は米国の安全保障のため宇宙技術開発を促進させる。宇宙分野は国家安全保障にとって重要な分野であり、米国は宇宙においても支配者でなければならない。
- (8) 諮問グループの議論等も通じ、今後 45 日以内に大統領への提言を行う。